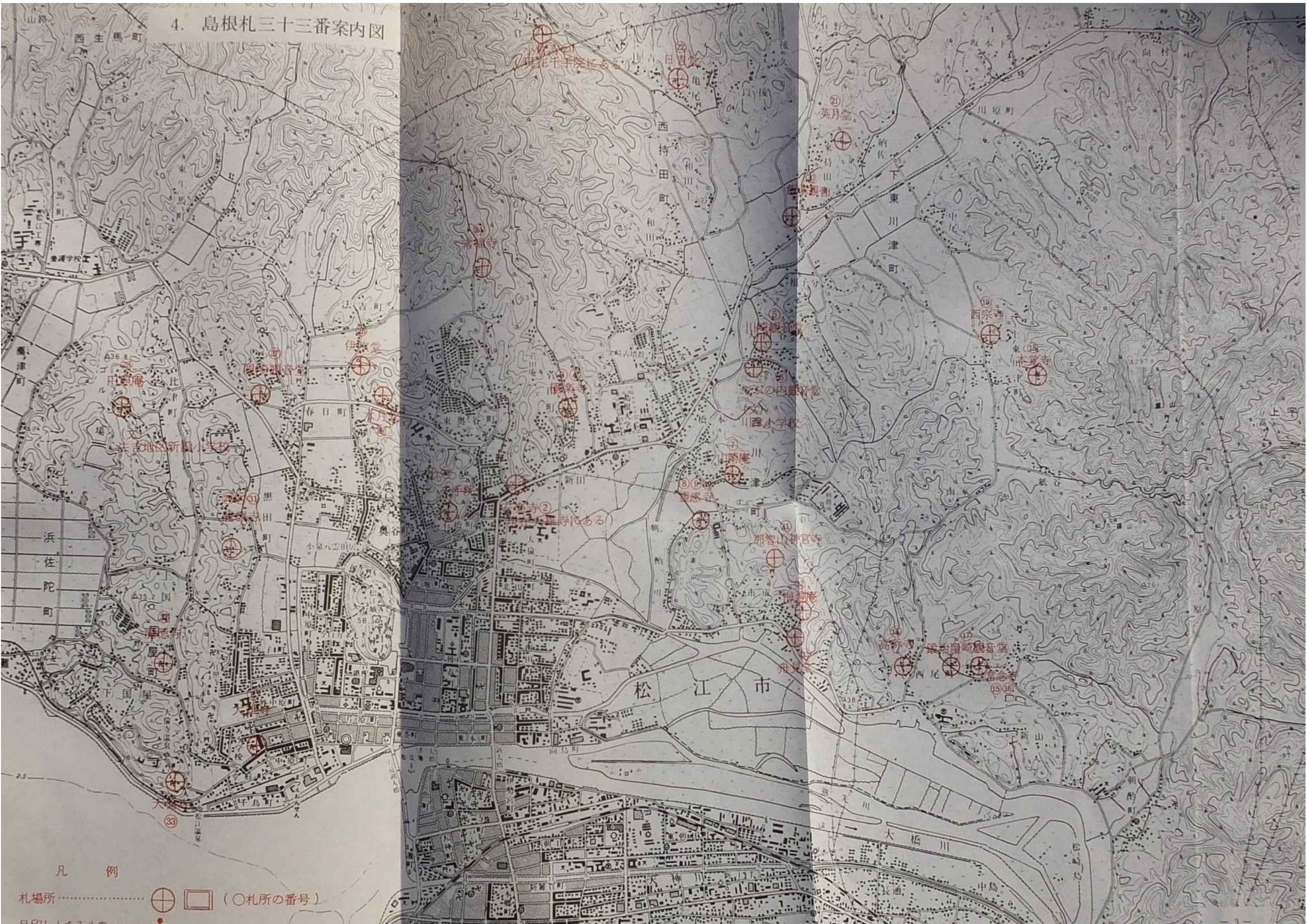


馬根札三十三番札所

ごあんない

1980

4. 島根札三十三番案内図



凡例
 札場所 ⊕ □ (○札所の番号)
 日印したところ ●

5. 島根札三十三番ごあんない

第一番 千手院 (第二十三番 小倉寺) ()

千手院のしだれ桜は、益田市の医光寺にあるしだれ桜の巨木とともに島根県内においては、名木であろう。春美しく咲きかり、多くの人々の眼を誘う。この境内には、西持田町小倉にあった小倉寺が移されている。また、この寺は、出雲札二十六番の札所でもある。

「まようべき ころのやみも はれよとや
てらすみのりの ひかりたのもし」 (第一番ご詠歌)

図-1 石橋町三丁目



第二番 安楽寺 (大雄寺) ()

石橋の切り通しにあった安楽寺は、中原の大雄寺の本堂に安置されている。この大雄寺は、小泉八雲ゆかりの寺で「八雲の神国の首都にある中原の鮎屋の怪談にでてくる寺。当時、このあたりは人も少なく淋しいところであった。」と山門に記されていた。

「あさなゆりな ころもやすく たのしみも
つきのおてらに かねひびくなり」 (第二番ご詠歌)

図-2 堂形町



第三番 極楽寺 (如意輪観音)
 極楽寺は、茶庭、茶室で有名な菅田庵の近くにある。本堂の右側には、第四番の福寿山観音堂もある。
 「みにおもき つみものがれて ごくらくに
 ゆくやほとけの ちかいなるらん」 (第三番ご詠歌)

第四番 福寿山観音堂 (極楽寺)
 「ひたすらに みちびきたまい かんぜおん
 ねがうところの まことありなば」 (第四番ご詠歌)

図-3 菅田町



第五番 川崎観音堂 (十一面観音)

大内谷入口の嵩見橋は、朝酌川のゆるやかな流れにかかっている。この橋はかつて大内谷橋と呼ばれていた、昭和二十七年改橋された際に嵩山を正面にみるところから嵩見橋と改名されたという。第五番と第六番の札所はこの付近にある。
 「かわさきの やまをのぼれば かねのねに
 てらあるかたと ふしながむべし」 (第五番ご詠歌)

第六番 やぶの内観音堂 (馬頭観音)

ここ大内谷も都市化が進み、住宅団地が造成され新しい住宅もたくさん建った。この観音堂を遊び場とした幼い頃を思い出す。この観音堂付近はなぜか昔とあまり変わらない。
 「たのめただ つゆのうきみも のちのよを
 すくうほとけの ふかきめぐみを」 (第六番ご詠歌)

図-4 西川津町大内谷



第七番 山崎庵

川津小学校は、校舎の老朽化と、狭い化のため、昭和54年4月1日に新しく西川津町宮尾名に
 移転され、近代的な立派な校舎になった。その間約100年の長い間川津教育の場であったこの川津
 地は、いつれ市民に役立つ施設によりみがあるであろう。
 山崎庵はこの旧川津小学校跡地の近くにある。

「うきくもは あらしにはれて やまさきの
 みどりにきよき つきのうつろり」 (第七番ご詠歌)

第八番 靈感寺

(聖観音)

この寺は、松平家の山荘があった楽山公園に接したところにある。最近のマックイムシの被害は
 ひどく、その対策が議会でも取り上げられ大きな社会問題となっている。
 長年風雪に耐えてきた境内の黒松の大木もこの被害を受け数本赤茶けていた。いずれ伐採しなけ
 ればならぬのであろうか残念なことである。

ここには、第八番の靈感寺、第九番の円通堂、第十番の松楽堂と三番あり、いずれも本堂に安置
 されている。したがって、境内にある地藏堂等は島根札とは関係ない。

「みほとけを たのむところの ふかければ
 みらびきたまえ みだのじゅうどえ」 (第八番ご詠歌)

第九番 円通堂

(靈感寺)(如意輪観音)

「つきかげも まどかにかよう どうなれば
 もうでぬとも まよわざらん」 (第九番ご詠歌)

第十番 松楽堂

(靈感寺)(

「たねあって ぜんごんふかき ひとはただ
 はなのめぐみを なすぞうれしき」 (第十番ご詠歌)

図-5 西川津町橋本



第十一番 那智山神宮寺

この堂は、薬師堂とも呼ばれ推恵神社、熊野神社の杉木立の参道を経て、市成の共同墓地に行く
 途中にある。

「つねにただ まもりたまえし じんぐうじ
 このよります つみやのがれん」 (第十一番ご詠歌)

第十二番 海潮庵

(

この庵は、開帳庵と書かれた案内書もあるが、靈感寺の先住快祐法印の記録に海潮庵とあるとこ
 ろからこれになった。

「はなもいま ひらくとそめの てらにきて
 そでにあやしき かぞにおえける」 (第十二番ご詠歌)
 (野津陽市氏、屋号、ソラ畑宅の前にある)

第十三番 舟見堂

(花田)(

この堂は、大橋川をみおろす小高い畑の中にある。ここからの眺めは、すばらしく対岸の津田地
 区のいらかを越えて、はるか中国山脈の山々を見ることができる。

「めぐりきて のぼるおやまの ふもとがわ
 よするやのりの みふねなるらむ」 (第十三番ご詠歌)

図-6 西川津町市成



第十四番 高称寺 (聖観音)
 西尾町郷戸にある榎の大木を目印しに行くところの観音堂がある。誰れがお供えしたのか知れぬが、榎の葉に赤飯が供えてあった。
 「ねがえおく ころもふかき つぼだにも
 たげねてここに てらもうでする」 (第十四番ご詠歌)

第十五番 常念寺 (聖観音)
 松江市立女子高等学校の校門前を山の手へと行くとこの寺がある。ここには、十五番の常念寺、十六番の向茂道名所と二番あり、境内の立派な観音堂に安置されている。
 「のちのよの みらびきたまえ てらのなの
 つねにねんじて たのむみなれば」 (第十五番ご詠歌)

第十六番 向茂道名所 (常念寺)(如意輪観音)
 「たづねきて たのむちかいを じょうねんじ
 ふかきみのりの しるしありてや」 (第十六番ご詠歌)

第十七番 鍛冶屋崎観音堂 ()
 この観音堂は、近代的ブロック建で常念寺より西へ約 200 m 行ったところの民家の裏山にある。
 「よのちりを あろうとぞみる かじやざき
 いわまのたきの きよきながれを」 (第十七番ご詠歌)

図-7 西尾町



第十八番 本覚寺 (十一面観音)
 嵩山の登山口より小川ぞいに登りつめたところに本覚寺がある。この観音様は本堂の入口に安置されている。

「このよより みちびきたまえ ぼんかくじ
 さとりのほうと いざしらぬみも」 (第十八番ご詠歌)

第十九番 よしだ観音堂 (西宗寺)()
 本覚寺より約 300 m 下ったところに西宗寺がある。よしだ観音堂はこの寺の境内にある。
 「のちのよも ただよしかれと ひたすらに
 ねがうころの ふかきみなれば」 (第十九番ご詠歌)

図-8 上東川津町



第二十番 飯森観音堂

()
この堂は、持田小学校、持田公民館の近くにあり、現在季節保育所等に使用されている。
「うきぐもは はらえつくして うくつゆに
そらゆくつきの やどるいのもり」 (第二十番ご詠歌)

第二十一番 英月堂

(穴 観 音)
東持田町の加佐奈子神社の横手道は深田別荘へと続く、英月堂は、この別荘の奥まったところにある。この庭園は広く廻遊式でつつじがたくさん植えてある。私達が訪れたときには、数輪の返り咲きをみるだけであったが、春満開となればさぞ美しいことであろう。
「つきもひも ささじとおもひ いわやにも
まいればはなの うてななりけり」 (第二十一番ご詠歌)

図-9 東持田町



第二十二番 日吉堂

(洞 泉 寺) ()
西持田町亀尾の丸山神社より約 200 m のぼった日吉地区に洞泉寺がある。
日吉堂は、洞泉寺の境内にあって本堂の左側に建っている。
「つゆふかみ むれしやまじも わけゆきて
ひよしのてらに そでやほすらん」 (第二十二番ご詠歌)

第二十三番 小倉寺

(千 手 院) ()
県道加賀港線の持田トンネルの手前にある集落が小倉地区である。ここにあった小倉寺は、現在千手院に移されている。(図-1を参照のこと)
「きぎはみな そめものこさぬ おぐらでら
ひかりをそえて つきさやかなり」 (第二十三番ご詠歌)

図-10 西持田町



第二十四番 白龍山常福寺

この寺は、毛利尼子の古戦場であった白鹿城、新山城のふもとにある。札場所は、本堂の左側に建っている。

「ひたすらに ねがいおきては なにごとも
なるぞたのもし このおてらは」 (第二十四番ご詠歌)

第二十五番 伊吹堂

このお堂は常福寺より小川ぞいに約700m下ったところにある。道路からは三つに別れたヤマモモの木しかみられないうが、その木の下に人眼を忍ぶかのように建っている。

「きてみれば すずしきかぜの いぶきやま
まよいのそらも さぞはろうらん」 (第二十五番ご詠歌)

第二十六番 水月堂

(高源寺)

城北小学校より西へと行くと左側に田原谷池、道路をはさんで右側の山の手この堂がある。お堂の案内板によると、この観音様は、行基菩薩作としてあった。

「かわなみの ながれもきよき てらのそと
しんによのつきの かげぞうつろり」 (第二十六番ご詠歌)

第二十七番 履崎観音堂

城北台団地より惠曇街道へぬける道は整備され広がった。この観音堂は、須賀神社より入った旧道ぞいにある。

「ふだらくや ただみのためと くつざきへ
まいるところは いつもかわらぬ」 (第二十七番ご詠歌)

図-11 法吉町



第二十八番 円照庵

ここ法吉地区も都市化が進み人口も急増した。現在この地に法吉地区新設小学校と称し新しい小学校が建設中である。いづれ〇〇小学校として教育の場となるであろう。円照庵は、この新設小学校の近くにある。

「まどかなる つきはみどりに かげさして
はなもつつじも てりまさるらん」 (第二十八番ご詠歌)

図-12 比津町



第二十九番 越崎観音 (龍雲寺)

「のちのよに ちかいをたのめ ちがいにく
めぐみもいとど ふかきかんのん」 (第二十九番ご詠歌)

第三十番 龍雲寺

この寺の参道は、竹やぶの中をくぐる。この小路は静寂そのもので薄暗い小路を進むとこの寺がある。ここには、二十九番の越崎観音、三十番龍雲寺、三十一番の珍松堂と三ヶ寺あり、いづれも本堂に安置されている。

「あけくれに いのちのほども よろずよと
ほとけのめぐみ たのまざらめや」 (第三十番ご詠歌)

第三十一番 珍松堂 (龍雲寺)

「はるばると ちんしょうどうへ まわりきて
ほとけのちかひ たのむもろびと」 (第三十一番ご詠歌)

図-13 黒田町



第三十二番 龍徳寺

この寺は、バス停国屋より北へ約100mのところにある。境内にはミ判の出雲札三十三番の霊場がある。

「あおげただ おもきつみをも ぬがるべき
みのりとてある ところのおてらを」 (第三十二番ご詠歌)

図-14 国屋町



第三十三番 天倫寺道來庵

この庵は、国屋町天倫寺の境内にある。近年(S36.8)この付近で温泉が発見され天倫寺温泉として開発され市民のいこいの場ともなっている。(図-2を参照のこと)

「やすらえと めぐりてここに どうらいあん
おさむるふだは よろずよのため」 (第三十三番ご詠歌)

6. 参考とした本

1. 著者不明：島根札三十三ヶ所御詠歌、発行日不明靈感寺吉松住職所有
2. 森口市三郎：出雲札三十三番札所めぐり、S 52. 5. 10
3. 松本 典：(続)尼子時代史探訪、S 50. 6
4. 小幡吹月：大山と隠岐と出雲、1972. 9. 20
5. 内藤正中：わが町の歴史松江、S 54. 8. 10
6. 松原泰道：観音経入門、S 47. 8. 10
7. 梅原猛、岡部伊都子：仏像に想ひ—①、②卷、S 49. 5. 30

7. あとがき

私は、紫雲丸遭難事故の生存者の一人である。その後二十数年間経過したいまでも、よくも生きのこったと思う。ここに犠牲者のみなさまのごめいふくを心から祈るものである。

はじめに述べた通り、私の父の一周忌にとり急ぎまとめたため、十分な取材調査を済ませず私見によるところが多い。さらに無学な私の拙文が皆様にご理解いただけるかどうか非常に心配なところである。

しかし、札場所の所在については、それぞれ確認して歩いたので昭和55年4月現在これらの札所は実在しているのは事実である。なお、ご校閲をいただいた野津徹(小林山処)氏に感謝します。最後に皆様、諸先生の率直な批判、御指導をたまわれば幸いです。

合 掌

編集者 足立修吉

松江市西川津町 325 TEL 0852-21-1899

発行日 昭和55年4月1日 200部発行

印刷所 母衣印刷